

名古屋芸術大学 キャリアセンター直伝

キャリア 二刀流

専門力 × 汎用力

キャリアセンターで伺いました
キャリアニュース
OB・OGの皆さんに伺いました

名古屋芸術大学

53
November
2020

グループ
通信

Master Artist

マスターアーティスト

アイデンティティ

芸術教養領域

リベラルアーツコース 助手

作曲家、トラックメイカー

中森信福

Information

教職員著作の出版物のご紹介

2020年度 演奏会スケジュール



名古屋芸術大学産学官連携プロジェクト

Vol.4

名古屋芸術大学 × 名古屋高速道路公社

開学・設立50周年記念

コラボレーション企画

Vol.5

企業とユーザーを想定して提案

スペースデザインコース

企業とのコラボレーション



名古屋芸術大学
産学官連携 Vol.4
プロジェクト

名古屋芸術大学 × 名古屋高速道路公社 開学・設立50周年記念 コラボレーション企画



名古屋高速道路公社とのコラボレーション、 橋脚ラッピングアートを公開

名古屋高速道路公社と本学の開学・設立50周年を記念してコラボレーション企画が進められました。2020年9月15日(火)、名古屋高速黒川出入口にある黒川ビルにて、橋脚ラッピングアートを公開、あわせて、50周年記念ロゴマーク、イメージソングが披露されました。新型コロナウイルスの影響によりさまざまなイベントが中止される中、黒川ビル前の屋外スペースを使い、感染防止に配慮する形で式典を行いました。

式典では、名古屋高速道路公社および本学関係者、また、ラッピングアートのモチーフとなった愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会の方々、さらにヴィジュアルデザインコースの学生が参列、盛大に除幕式が行われました。

作品の公開にともない、制作チームを代表し、ヴィジュアルデザインコース3年の荒木香奈子さん、大熊美央さん、小久保楓さんが作品について説明しました。橋脚ラッピングアートは、名古屋市内の黒川、円頓寺交差点、ささ

しまライブ、若宮大通公園、名古屋みなとアクルス前の5か所10面に施され、それぞれ街のイメージやカラーリングなどデザインに工夫が凝らされています。「名古屋らしさ」や街の特色を出すために、設置場所をリサーチしたことや、アジア競技大会の訴求効果などに考慮したこと、苦労した点についてなど説明しました。また、ラッピングアートにはSNSでの拡散を考え、ハッシュタグとアイコンもあわせて提示されていることも紹介されました。

除幕式に続き、イメージソングが披露されました。歌は、声優アクティングコースのオーディションで選ばれたボーカルユニット「Rue*Claire(リュ*クレール)」(仏語で「道」の意。3年の塩澤美響さん、2年の伊藤佳帆さん、羽田佳令さん、増田真衣さん、1年の上田晴菜さんで構成)、曲はオリジナルの「君と行きたい」(作詞:文芸・ライティングコースの小田真帆美さん、サウンドメディア・コンポジションコースの濱元衣織さん、作曲:濱元衣織さん)。揃いの衣装に身を包

み、振り付けも軽快に歌い上げ、会場に彩りを添えました。耳なじみが良く、公社の方々も口ずさんでいる姿が印象的でした。

名古屋高速道路公社黒川ビルには、レインボー黒川広場というスペースがあり、今回制作された橋脚ラッピングアートの作品が展示されています。式典出席者が作品を閲覧する間、名古屋高速道路公社新開輝夫理事長にお話を伺いました。「橋脚ラッピングアートですが、そもそも都市景観上、橋脚に絵を描いていいのかという問題からスタートしました。大きなスペースであり公共性も高いため、景観に配慮する必要があります。ちょうどその頃、同じような形で首都高速で東京オリンピックのPR活動があり、愛知ならアジア競技大会で可能であると考えました。組織委員会の方々にもご協力いただき、非常にいいものができたと喜んでいました。絵の部分については、名古屋芸大さんにできるだけお任せして自由に作っていただきたいと思いましたが、制約もありどうだろ

うと心配していました。ですが、スポーツとデザインの要素をうまく取り入れて考えられていて、本当に素晴らしいものができたと嬉しく思っています。イメージソングについても、3つ案をいただき、公社の中で投票して今回の曲が選ばれました。どんな人に歌っていただけるのだろうと思っていたところ、専門に勉強されている学生さんと聞いて驚きました。元気があってみずみずしく素晴らしいです。グループ名も「道」に関連したもので、感謝でいっぱいです。公社としては、これからこの歌を使ってどんなPRをやっているか、次の仕事をいただいたように感じています。公社も名古屋芸大さんも50周年を迎えますが、自分たちだけでやってきたというわけではありません。社会やいろいろな人と関わり合いがあって、それだけの年数活動してこられたのだと思います。これまでやってきたことを振り返りつつ、コラボレーションすることで新しいことができるのではないかと思います。今回、新





型コロナウイルスの影響で予定していた式典はできませんでしたが、逆にそのおかげとっては変ですが、新しい形で除幕式を開くことができました。これまで、公社は道路事業を基本に、安全を考え渋滞や事故を減らす、そういったことに取り組んできました。名古屋高速も50年経ち、利便性を高めることに加え、「利用する皆様に愛着を持っていただける高速道路」へと変わっていく必要があります。今回のコラボレーションは、公社にとっても非常にいい経験になりました。名古屋芸大さんには、街作りやいろいろな形で社会貢献できることがあるのではないかと、大

きな可能性を感じています。
橋脚ラッピングアートは、名古屋市内5か所で展示されています。お近くにお越しの際は、ぜひご覧下さい。また、イメージソング、Rue*Claireの『君と行きたい』のMVをメディアデザインコースの学生が制作中、間もなく公開予定です。こちらもお楽しみに。



Rue*Claire
『君と行きたい』



若宮

賑やかで楽しんでいるイメージ。若宮には4面のスペースがあるため、1面ずつ大きく使う色を決め、パターンと組み合わせで展開しています。繁華街のキラキラした印象をダイヤ型で表現しています。

名古屋高速道路公社 × 名古屋芸術大学

名古屋高速橋脚ラッピングアートプロジェクト

橋脚ラッピングアート概要図

制作チーム/ヴィジュアルデザインコース 3年 荒木香奈子 大熊美央 川瀬詩乃 小久保楓 永井希実 名取友春 平林花菜

橋脚ラッピングアートプロジェクト

「名古屋らしさ」を表現するために設置場所についてリサーチし、それぞれの場所にマッチしたパターンを作成しています。色彩についても場所と関連付けてカラーパレットを構成、色彩の共通性と幾何学形態によって10面のラッピングアートそれぞれに連動性を持たせています。

アジア競技大会を連想させるスポーツのイメージは、墨で描いたシルエットにして躍動感と期待感を表現しています。種目はラッピングアートが設置される場所の近くで開催される競技が選ばれています。各スポーツの代表的なシルエットを墨と筆で抽出し、動きや骨格のイメージと重ね力強さやしなやかさを、また、かすれ具合で躍動感を表現しています。

黒川	円頓寺	ささしま	港
ビルが多く、ビジネスメントと近くの堀川のイメージから、紫、濃い青といった落ち着いた配色にしています。円になっている名古屋高速道路公社の建物から円状のパターンとなっています。	歴史ある商店街から、レトロ感のある淡い配色にしています。名古屋の歴史を象徴するしゃちほこの鱗の模様と円頓寺商店街の木目のパターンを合わせています。	若者が多く爽やかでフレッシュなイメージから配色しています。新しい建物、さまざまなイベントなど、新たな街が生まれる躍動感と先進的なイメージを表現しています。	名古屋港と水族館から水のイメージ。アクセントとして補色のオレンジを加えています。波を曲線で表現しています。連続させることで勢いや美しさを演出しています。

■制作チーム/ヴィジュアルデザインコース 片山浩 准教授
3年 荒木香奈子 大熊美央 川瀬詩乃 小久保楓 永井希実 名取友春 平林花菜

50周年記念 ロゴマークを作成

ヴィジュアルデザインコース3年の学生8名がアイデアを提出、4名が選ばれてデザインを考え、それらを基に片山浩准教授がブラッシュアップ。最終的に名古屋高速道路公社が選定して、ロゴデザインが決定しました。

■デザイン/ヴィジュアルデザインコース3年 荒木香奈子

名古屋高速をモチーフとした曲線と50の丸い形を重ねて表現しています。曲線の柔らかさとメリハリある奥行き感で過去から未来への時間の経過を表し、街と市民に寄り添う歴史と未来を作っていくことを伝えています。



「君と行きたい」MVを メディアデザインコース が制作

Rue*Claire (リュククレール) が歌うイメージソング「君と行きたい」のMVをメディアデザインコースの学生たちが制作しています。映像作家の岡根智美さん監修の下、監督、撮影、編集もすべて学生が行っています。庄内川にかかる高速道路の「赤とんぼ橋」をバックに撮影するなどの市内ロケに加え、歌のシーンではパロマ瑞穂スポーツパークのスタジアムを借り切り、大掛かりな撮影となりました。

当日は、Rue*Claireに、バンド(ギター、ベース、キーボード、ドラムス)も加わり、必要なカットを撮影していきました。演出



には、声優アクティングコース 福満薫講師、サウンドメディア・コンポジションコース 原田裕貴講師も協力し、監督の指示に従い進められました。監督の東元佐穂さんは判断も速く、限られた時間でしたが、テキパキと指示を出していました。撮影は途中、突然の激しい雷雨に見舞わ

れるなど天候に左右され、予定どおりいかない場面も多々ありましたが、その都度、各自の臨機応変な判断と迅速な対応で

乗り切り、後半には晴れ間も出て、無事に撮影を終えることができました。



- | | |
|-----------------|-----------------|
| ■出演／ Rue*Claire | ■監督／ 東元佐穂 |
| ギター 小林直正 | ■撮影／ 平山亮太 糸爽歌 |
| ベース 柘植俊哉 | 藤井勇樹 |
| キーボード 小田智之 | ■撮影補助／ 岡根智美 |
| ドラムス 三浦可蓮 | ■演出補助／ 福満薫 原田裕貴 |

名古屋高速道路公社 50周年記念動画に ヴィジュアルデザインコースの学生が出演、 西キャンパスにて撮影

2020年8月28日(金)、本学を利用し、名古屋高速道路公社50周年記念動画の撮影が行われ、ヴィジュアルデザインコース3年の渡辺英莉さんが出演しました。

動画は、名古屋高速道路公社50周年記念サイトで公開されるもので、約3分のコンテンツ。すでに制作された記念ロゴマークをモチーフに、名古屋高速を歴史や名古屋市内のランドマークと合わせて紹介するものです。

撮影は、西キャンパスG棟デッサン室と図書館で行われました。午前中は動画のオープニングとエンディングにあたる部分でデッサン室にて50周年ロゴを

描き上げるシーケンスを、午後は図書館で動画前半部分の歴史書を読むシーンの撮影が行われました。撮影には大量の照明や暗幕、カポックなどが持ち込まれ、プロならではの本格的なものとなりました。

出演する渡辺さんは、ロゴマークの制作にも携わっています。高校時代は演劇部に所属し、人前に出ることにあまり抵抗はなかったとのこと。「アップのシーンが多くてびっくりしています。うまくできているか心配です。動画に出演することは、友達にしか話しておらず、家族も驚くだろうと思います。いろい



ろな人に見てもらうのが楽しみです」と語りました。演技の経験がいかに発揮され、手の動かし方や視線の送り方など監

督からの細かな指示にも的確に応え、スタッフからの評価も上々で、順調に撮影が進められました。



上記の動画は、名古屋高速道路公社設立50周年記念映像でご覧いただけます。



名古屋芸術大学
産学官連携
プロジェクト
Vol.5



企業とユーザーを想定して提案 スペースデザインコース 企業とのコラボレーション

スペースデザインコースでは、デザイン演習Ⅱの授業で、株式会社オダタイヤ様、株式会社パームホルツ様、株式会社ガーデンメーカー様のご協力を得て、学連携プロジェクトを進めています。株式会社オダタイヤ様とは、トヨタカローラ愛豊株式会社にて新型ハリアーのショールームディ

スプレイの提案、株式会社パームホルツ様とは、産業廃棄物であるパーム材を原料とした海外のパブリックスペースで使用できるストリートファニチャーの提案、株式会社ガーデンメーカー様とは、家族や地域社会のコミュニケーションを活性化させる庭とそのための装置やツールの提案を行っています。新型コロナの

影響で、対面授業がままならない前期でしたが、各企業の方々を本学にお招きしたり、学生らが企業へ出向いてプレゼンしたりするなど、提案をブラッシュアップさせ試作する段階にきています。最終的には、採用された案を実現し、実際に店舗などで展示されることとなります。非常に楽しいプロジェクトです。

株式会社オダタイヤ×トヨタカローラ愛豊株式会社 展示車のショールームディスプレイ

店舗とクルマのイメージと購買層を想定して、3つの提案を行いました。学生らは、一宮インター店を訪れてプレゼンし、店舗で働く方々にも提案を見ていただきました。幅広い人にクルマへ興味を持ってもらうための「漫画」パネルの案が好評でした。実際に展示する場合の構造や安全面への質問もあり、実現へ向けての課題が新たに見えてきました。同時に、大きく手応えも感じました。



株式会社パームホルツ OPT (オイルパーム樹幹) を使ったストリートファニチャー

株式会社パームホルツ様は、産業廃棄物として捨てられているオイルを採取したあとのパーム樹幹を、材木の代わりとして再利用する事業を進める企業。そのオイルパーム樹幹を使い、材木として利用できる強度があることや、再利用されず廃棄されているという問題そのものを広く知ってもらうため、ストリートファニチャーを提案しました。9名の学生が、9つの案をプレゼンしました。



株式会社ガーデンメーカー 庭に対するデザインの提案

狭い庭を広く活用できるようにする構造体や、水はけをコントロールして水遊びのできる庭、地域社会を楽しませるギャラリーの機能を持つ庭、庭のない家でも室内で自然を感じリラックスできる小さな庭など、家族や地域社会のコミュニケーションを活性化させる庭のデザインを提案しました。株式会社ガーデンメーカー様の会社見学もさせていただき、提案以外にも多くの交流が生まれました。





【特集】
キャリア
二刀流
専門力×汎用力
 名古屋芸術大学
 キャリアセンター直伝

米中貿易戦争やコロナ禍の影響で2020年は「未曾有の就職難」と呼べる状況です。

その中、本学では名芸生の「専門性」という大きな武器を最大限に活かす取り組みをさらに強化しました。

キャリアのプロに学び、先輩方の助言に耳を傾け、たくましく自分のキャリアを切り拓く力を身につけよう!



キャリアセンター長
 人間発達学部 教授
 中川直毅先生

名芸生の「小さな刀」とは キャリアセンターで伺いました

で教えてください。

コロナ禍の影響を受けて悪化した経済情勢を背景に、就職状況は悪くなっています。今年度もさることながら、来年度はさらに悪くなることが予想されます。このような状況下において、学生さんをむやみに心配させることなく、その不安を除去しつつも、警戒感を持って将来のキャリアを考えることができるよう、次のことに注力しています。

①情報力の発揮

学生さんの夢の実現をサポートするため、新規求人獲得、採用動向の最新情報把握と情報提供を強化しています。

②リスク回避できる支援体制

ブラック企業への入社防止、内定取り消しなどに対する適切な対処ができる体制を整え、学生さんを守ります。具体的には、弁護士など専門家と連携した相談体制の確立、企業情報の収集、職員の自己研鑽(労働法の習熟など)を行っています。

—本学が考える「キャリア」とはどんなことを指しますか？

本学が考える「キャリア」とは、4年間かけて学ぶ専門分野という「大きい刀」に加え、経営や法律の基本知識、経済動向の理解、リスク管理など、働くうえで役立つビジネス力としての「小さな刀」を備える「二刀流」によって生き抜く力をつけ、仕事で夢を実現させることです。これは、「専門力と汎用力の両方を活かした職業生活を送ることによって、豊かな人生を獲得すること」と言い換えることもできます。

本学の学生さんは、学びを通じて専

門力を高めていることが強みです。キャリアセンターでは、これら専門力を活かした職業に就けるよう支援していることに加え、さらに次のような力を補強することで学生さんが、社会に出て活躍できるよう、キャリアに関する授業、特別講座、催事を展開しています。

- ①**全ての仕事に共通して求められるビジネス力**
- ②**物事を複眼的に捉えて仕事の幅を広げられる力**
- ③**法律知識によって自分の身を守る力**



—今年度と来年度以降の就職状況につい



—キャリア教育はどんな人に必要ですか？

全ての人(学生さん)に必要です。

職業生活を通じて豊かな人生を獲得するためには、**広い視野を持って社会のことを知り、自らの強みを活かして仕事をすると同時に、己を守る術を学ばなくてはなりません。**キャリア教育とは、学生さんにとって、将来の安定した職業生活を支えるための滋養となるものです。

またキャリアセンターでは、在学生の方だけでなく卒業生の方に対しても充実した支援が行えるよう準備をしています。



キャリアセンターの取り組みについて教えてください。

コロナ禍の影響に対応した特別な取り組みとして、支援体制をさらに強化し、2020年度の後期、次のような施策を展開していきます。

オンライン就職支援

コロナ禍の影響で4年生の就職活動は長引いています。さらに強化したサポート体制で就職活動を続ける4年生をバックアップします。具体的には、Google Classroomを使い、求人説明会、面接対策講座、個別面談をオンラインで実施します。

キャリアセンター緊急支援措置によるサポート(→P8)



春より実施している緊急支援措置をさらに強化します。労働法の専門家である私(中川キャリアセンター長)をはじめ、弁護士、社会保険労務士、公認心理師による相談窓口を設け、不安な保護者の皆様、学生さん、卒業生の方を守ります。新たな求人開拓に力を入れ、求人紹介フェアを実施します。また、就職・雇用の最新情報を収集し、情報提供を続けていきます。

ハイパワー講座座談会(→P9)

授業「キャリア3」のスクーリングとして、座談会形式の講座を行います。私がファシリテーターとなり、弁護士、大企業管理職、社会保険労務士、税理士、大学講師などにご登壇いただき、「これからの時代のキャリアについて考える」というテーマで意見交換をしていただきます。

ペンタゴン作戦

さらに厳しくなることが予想される2022年3月卒業生(現3年生)をサポートするプロジェクトです。3つのハイパワー講座特別講義に加え、就活対策の総復習、教員採用試験対策の講座を設け、しっかりとした準備をして就職活動に臨めるよう支援します。いずれも、Google Classroomを使います。

リスクマネジメント講座

私生活・職業生活の両方において、リスクは常に潜んでいます。個人のリスクは家庭のリスクでもあります。自分と家族を守り、豊かな人生を送るためには、リスク源を察知し、それに触れないことが大切です。キャリアセンターでは、私を中心に、本学のキャリア支援の方針にご賛同いただいている弁護士および社会保険労務士にご協力いただき、日常生活(学校生活や家族生活)および職業生活に潜むリスクを察知し、それを回避する方法をご講義いただきます。

具体的には、いじめ、金銭トラブル、ブラック企業、労災、ハラスメント、人事制度、年金、医療保険、相続、不動産など

をテーマとします。本講座は、保護者の方および卒業生の方にもご試聴いただけるようにする予定です。キャリア系の社団法人に協力を求めて就活力を養成する副読本として「キャリアスキル読本」も準備しています。

上記以外に、例年行っている取り組みには次のものがあります。

①ハイパワー講座

(NUA 高度就業力養成講座)

芸術系大学ではあまり例のない「就業力」の養成を目的とし、ビジネス界で有名な講師を招いて特別講座を開講。

②官民学合同説明会&交流パーティー(→P8)

広く社会のことを知ってもらうことを目的とし、官公庁や優良企業を招き、各業界の全体像や仕事に関する説明会を開催。学生さんと出展企業などの交流パーティーも実施。社会人と直接話をする経験を提供。

③社会施設見学会

世の中にある色々な仕事を、実際に見に行こうという企画。大学提携の官公庁や企業にお願いし、キャリアセンターの教職員も同行して見学。

④資格取得講座

就職に役立つ資格の取得を目的とし、英会話、TOEIC対策、Illustrator・Photoshop講座、秘書検定講座、話し方講座などを開講。

⑤ビジネス力を養成するカリキュラム

来年度からは、経済学、民法、労務論、組織論、簿記論、行政論など、ビジネス力の養成と公務員試験を想定した講座を開講。



キャリアセンタースタッフ。左から、水口チームリーダー、河野チームリーダー、中川センター長、山田学務部長、伊藤チームリーダー

「経験豊富な専門スタッフが全力で学生の皆さんをサポートします。進路について疑問や不安があれば気軽にキャリアサポート室に来て下さい。お待ちしております。」

官民学合同説明会 & 交流パーティーを開催



2019年8月6日(火)、東キャンパスにて本学初めての「官民学合同説明会&交流パーティー」を開催しました。

この催しは、本学キャリアセンターの主催で行われ、北名古屋市役所、愛知県警、防衛省自衛隊などの公的機関、アイリスオーヤマ株式会社、株式会社河合楽器製作所などの私企業、合わせて20以上の出展があり、学生が直接官庁・企業の方々から説明を受けたり、話をしたりすることができます。夏休み中にもかかわらず、就職に関心のある多くの学生が参加しました。

合同説明会に先立ち、3号館ホールにてキャリアセンター長中川直毅教授が「企業から見た

名芸大生、大学から見た名芸大生」という演題で、特別セミナーを開催しました。

セミナーでは、有効求人倍率の変遷から今後の雇用動向について、また、働き方改革が進められ変化する労働環境と労働効率、さらに、AIの普及により今後、人間がやるべき仕事と人間にしかできない仕事を中心に、なっていくと考えられ、そうした時代には、創造性や情報分析力、業務改善力、交渉力、リーダーシップ力といったビジネススキルがますます重要になっていくことが指摘されました。芸術大学には、これらの力を養うカリキュラムが用意されていること、本学の学生らが学んでいる



キャリアセンター長 中川直毅教授の特別セミナー「企業から見た名芸大生、大学から見た名芸大生」。参加した官庁・企業の方々にも出席いただきました

合同説明会終了後は、食堂で交流パーティー。和気あいあいとした雰囲気



合同説明会では、気軽な形式で学生と面談したり、学生から相談を受けたりするブースも見られました



内容が紹介され、それぞれの領域の学生がどんなビジネススキルにつながる特性を持っているかが説明されました。これからのキャリアの動向としては、本業に加え副業を持つことの一般化が予想されることや、副業として収入の増加だけでなく、得意な分野でボランティアとして社会とかわること、学生時代では叶わなかった夢の実現や自己のスキルアップとして捉えることで、豊かな生き方につながる

セミナーの後は、2号館ホワイエにて合同説明会が開催されました。パンフレットや説明用の

映像を用意するところも多く、座談会形式で自由に話せるブースもあり、充実した内容となりました。3年生では、この説明会が初めての就職活動となった学生も多く、自分の将来やキャリアについて考える契機になったという声も聞かれました。

合同説明会の後は、学生食堂での交流パーティーとなり、官庁・企業、本学スタッフ、学生の間で歓談が行われました。官庁・企業の方々からも笑みがこぼれ、学生とも忌憚のない意見交換をする姿が見られ、説明会よりも一層穏やかで和やかな雰囲気



キャリアセンター、新型コロナに対応し緊急求人紹介フェアを開催

2020年8月6日(木)、東キャンパス2号館ロビー、8月7日(金)、西キャンパス食堂前ロビーにて、キャリアセンター主催、緊急青空就職紹介会「新型コロナ禍でも東海地方で働ける企業求人紹介フェア」を開催しました。このイベントは、就職を考える今

年度4年生、修士2年生を対象に、これまで本学卒業生が就職した企業、キャリアセンターでお願いして採用意欲を示していただいた企業を希望する学生に紹介するものです。ポイントは、専門職、保育、教諭職を除くこと。音楽や美術、デザイン、初等教育と



いった、それぞれの領域専門外の企業にスポットを当てています。専門とは別の可能性を感じられるようさまざまな業種の就職先を紹介しています。イベントでは、訪れた学生にはキャリアセンターが個別に面談、学生の希望を聞き適合するような企業を紹介しました。

キャリアセンターでは、「新型

コロナウイルス感染拡大に対応した緊急支援措置」を実施しています。このような不測の状況下にあっても、一人一人に寄り添ったサポートをしていきたいと考え、電話、メール、ポータルサイトからの連絡があった場合にできる限り応答できるように特別チームを編成しています。

ハイパワー講座 座談会を開催



中川直毅教授の基調講演 当日受講者数を制限の上、感染対策を徹底しました
受講者に配布された「履歴書・エントリーシート対策入門」

2020年9月26日(土)、西キャンパスB棟大講義室にて、特別講義「ハイパワー講座 座談会～これからの時代のキャリアについて考える～」を実施しました。この特別講義は、広い視野でのキャリア形成を目的とした「キャリア3」の授業をベースにしたものです。キャリア3の講義では、社会の第一線で活躍する弁護士や社会保険労務士といった実務専門家、企業の管理職、経営コンサルタントの方々をお招きし、リレー形式でキャリアについて学ぶ内容でした。今回の特別講義では、キャリア3で講義していただいた先生方、さらに本学山田芳樹学務部長を交えての座談会となりました。講義はビデオで撮影を行っており、オンラインで観ることもできます。

講座は、キャリアセンター長中川直毅教授の基調講演から始まりました。コロナ禍で今年の就職活動は厳しい状況であり、さらに来年も今年同様、厳しくなることが予想されている。しかし、コロナ禍に悲観するばかりでなく、基本に立ち返って自分の力を伸ばして欲しいと示唆を与えます。本学の学生には、ものごとに取り組みやりこなす忍耐力とそれを続けていく継続する力があり、それは他の一般大学の学生よりも強いものと言えます。そうした、専門を学ぶことで培われた力に加え、実社会で働いていくためのコミュニケーション力や法律、社会の

ルールなどのビジネス力を身につけ、幅広い価値観を持って力を伸ばし、逆境の中でも立ち向かっていける力をつけて欲しいと激励しました。景気は悪いときばかりではなく、状況が整ってから自分がやりたいことを始めるのも遅くはない。専門とビジネス力という2つの力を身につけて、幅広くものごとを捉えて欲しいと締めくくりました。

座談会は、中川教授がファシリテーターとなり、学生から質問を受け、それに講師陣が応える形で進められました。今回の特別講義の受講者には、キャリア3の講座を受講していない学生も含まれているため、パネラーがそれぞれにキャリア3ではどんな内容の講座を行ったか説明しながら自己紹介をしました。弁護士の丸山紳氏は、日常生活上の法的リスクを学ぶということで、身近に起きることを題材に、法律は実社会と深く関係があることを知り、興味を持ってもらうための講座。経営コンサルタントの高橋克典氏は、これまでの知識中心だった時代から近年では感性や創造性が重要視

されるようになった。芸大生が持つ能力を上手く発揮できるようになって欲しいと述べました。(株)日立ソリューションズの伊藤直子氏は、学生時代は男女の格差や不平等などを感じることはないかもしれないがと前置きをしながら、ジェンダーギャップ指数などのデータを紹介し、社会に出る前から知っておくべき事柄について述べ、キャリアについて考える上でロールモデル(具体的な行動や考え方の模範となる人物)を複数持つようにして、状況に合わせてさまざまな考え方をするのが良いとアドバイスしました。社会保険労務士の田畑啓史氏は、労働環境をよく知る立場から、女性が働く場合、出産や育児などライフイベントの負担も大きく、男性よりもキャリアを形成していくことの困難さがある。そのときの状況に合わせて、できる範囲で対応していくしかないのが現状で、上手くやって欲しいと激励しました。山田学務部長からは、就職については3年生の時期が重要であり、自主性を育むことで社会人としての基礎力が養われると説明しました。

学生からは、自分は一度社会へ出てから大学に入学したが、年齢の遅れは他の学生に対しハンディキャップを感じ、就職に影響するのではないかと心配といった相談や、自分の人生の転機について、自分で何かを始めることが苦手で踏み出すことが怖いと感じるが、そういう気持ちになったことや後悔したことは?、なりた職業が思いつかないなどなど、数多くの質問が投げかけられました。それらの質問に対しパネラーからは、自身も順風満帆にキャリアを積み上げてきてわけではないことが語られ、学生らも大いに刺激を受けたように見受けられました。学んだことが必ず役立つとは言えないかもしれないがマイナスには絶対にならない、パネラー自身も不安を感じているし、誰もが不安を感じながら生きているのが現代であり、目の前のことに取り組んでいくことが実は確実なことであるなど、自身の経験を交えた回答に学生らは聴き入っていました。自分のやってきたことに自信を持ち今後もやって欲しいとエールが送られ、講座は終了となりました。

■パネラーの皆様





先輩の経験に学べ OB・OGの皆さんに 伺いました



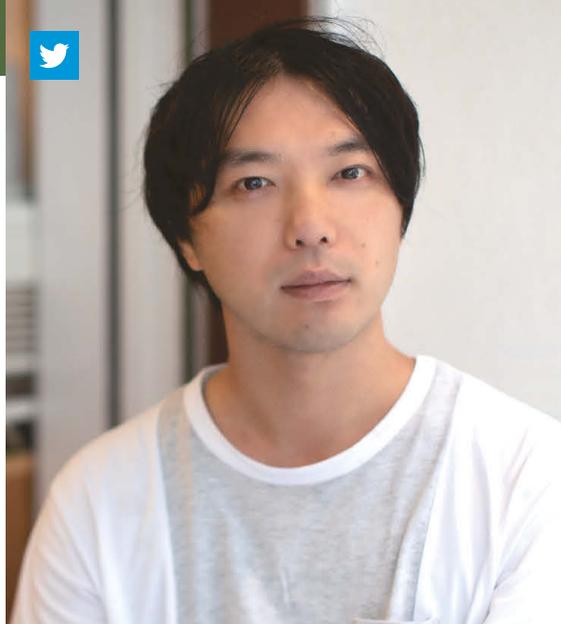
初期のFRILロゴ



原点は、大学で出会った 双方向コミュニケーションの魅力

takejune
さん

デザイン学部デザイン学科造形実験コース(現 芸術学部芸術学科デザイン領域メディアデザインコース) 卒業
元 株式会社Fabric取締役共同創業者
日本初のフリマアプリ「フリル(現 ラクマ)」をリリース



Fabricが提供していたFRIL



現在は、エンジェル投資家と起業家をつなぐ「ANGEL PORT」のCo-Founder/CDOとして活躍

ちゃ良かったです。1年365日のうち、350日くらい演劇部のために学校へ来ていましたね。

デザインの授業では、ファンデーションでいろんなことをやらせてもらったのが良かったです。その中で自分の適性というか相対的に自分の得意なこと・苦手なことが見えてきます。自分はインタラクティブなデザインに適性があるとわかりました。そうした把握ができたことがとても役に立ったように思います。

-今、何をしていますか？

インターネット関係の会社でデザイナーをやってきて、現在は一般の人が使うウェブサービスやスマートフォンアプリ、そういうものを企画運営する会社を経営しています。

-卒業してからはどんな仕事を？

2007年に卒業し、当時ECナビという会社(現 株式会社 VOYAGE GROUP)に新卒で就職。総合職としての採用しかなく、総合職で入社し、その後デザインの仕事をすることになりました。当時は紙媒体が主流で、インターネット企業が新卒採用することもまだ少なかったです。最初に配属されたのが社内スタートアップのような企画で、少人数で新しいサービスを作っていくチームでした。2年間くらいその仕事をしましたが、携わったサービスはゼロから100万人くらいユーザーを獲得するまで成長しました。ネットの仕事は、自分でデザインしたものをリリースすると1時間くらいで反応が見えてきます。そのレスポンスの良さに面白さを感じました。デザインの仕事は、プロダクトデザインの場合などでは、デザインしてから世に出るまで時間がかかりますし、デザインがどれくらい売上に寄与したかもわかりにくい。その点、デジタルなものだと明確に数字でわ

かります。自分が手を動かしたものがビジネスに影響を与えていくんだという実感が得られました。その後、別の会社へ転職、デザインだけでなく、自分の考えをもっと作るものに反映させたい、企画やディレクションもできるようになりたいと考えるようになりました。会社の仕事をしながら、プライベートでもウェブサービスを構築したり、また、シリコンバレーのカンファレンスを見に行く機会があり、刺激を受けて起業しました。

-名芸を選んだ理由

消去法です(笑)。高校2年とき、試験勉強をしていて、気が付くと夕方まで壮大なイラストを描いていました。美大を目指している友人もいて、それならばこうしたことを専門とする大学へ行けばいいんじゃないかと思うようになり、美大への進学を意識するようになりました。名芸は、学校を見て自由そうな雰囲気が入りました。

-大学での経験で役に立ったことは？

大学時代、演劇部で部長をやらせてもらったんですが、その経験。自分が考えてきた頭の中のを世に出していくということが面白いんです。演劇部では、1年のときから部長で、学内でも学外の公演でも、好きなようにやらせてもらったのがめちゃく

-今、ハマっていることは？

一つは会社のこと、もう一つは子育て。仕事以外の時間はすべて育児に充てています。ほかに何かする余裕はないです。

-名芸を目指す人に一言！

2つあって、一つは自分に合ったこと、やり続けていても苦勞せずに行けることを見付けること。自分は、デジタルのことに限らず、それを大学で見定めて欲しいですね。もう一つは、デザインの思考力を身に付けて欲しいと思います。小手先の技術というのはいくらでも後から身に付けられますが、考え方を鍛えることは普段から習慣がなければ身に付きません。本を読んだり、やったことのない表現を練習したり、そういうことが自然とできるようになるといいですね。デザインには目的があります。そのデザインを通して人の行動を変えるなど達成したいことがあり、その目的に対してどういう表現が適切なのか考えることがとても大切です。論理的な思考ができるデザイナーがすごく求められています。



http://www.mineyo.net/



音楽療法は、 自分の音楽の 表現でもある

音楽療法コース卒業
音楽療法士、シンガーソングライター

「Belle Équipe」というユニットで、舞踊家 倉知可英氏、
写真家 園田加奈氏とコラボレーションし映像作品などを制作
音楽療法の他、CM・ショートムービー等の音楽制作、楽曲提供
舞台出演、ワークショップなどを実施



古川峰世 (Mineyo)さん



ママと一緒に「やってみよう!」と、子どものために楽しいアイデアを出し、急速、実験的に実施したプールでの音楽療法の様子

で自分に自信が持てることに気付かせてもらえました。人と関わり合うことはとても大事なことだと感じます。

-今、ハマっていることは?

自宅で音楽療法をやっていますが、自分なりの音楽療法ができないかと模索しています。子供はもちろん、お母さんもリラックスして休むことのできる場所、まわりの家族もケアするようなことです。始めた頃は、正しいやり方じゃないんじゃないか、独りよがりになっていないかと思うこともありましたが、表現活動をする仲間のクリエイターの助言や手助けもあり、子供とその家族のための音楽の空間を作ることができるようになってきたのかなと思っています。また、音楽だけでなく、ものを作ることの楽しさを共有できるような、音楽以外のことも取り入れたワークショップも始めました。シンガーソングライターとしての音楽活動は、音楽療法の活動と分けて考えてきましたが、やっていくうちに相手に音楽を届けるということにおいて同じだなと思うようになりました。音楽で一体になり感覚を共有する点は同じだと。音楽療法は、自分の音楽の表現でもあると思うようになってきました。

-名芸を目指す人に一言!

大学ではたくさんの人との出会いがあり、それが今の私にとってなくてはならないものとなっています。やってみたいなら、やってみることをお勧めします。大学は、いっぱい失敗できる場所でもあります。失敗の経験は何よりも大切で、いっぱい失敗したらいいと思うんです。やりたいことをやってみる、それができる場所です。

-今、何をしていますか?

自宅のスタジオ (Studio U*CCA) で、音楽療法をベースに、ピアノのレッスンやワークショップなどさまざまなことをやっています。

-卒業してからはどんな仕事を?

じつは、音楽療法を学ぶ前に、別の大学の経営情報学科というところに行っていて、卒業してから一旦、就職し働いていました。働き始めましたが、在学中から音楽活動もやっていて、音楽を続けたい気持ちが強くなり、芸大に入り直しました。音楽療法コースを卒業してからは、名古屋で音楽活動と音楽療法士の仕事を始めました。ところが結婚を機に、名古屋を離れることになり、一時的に活動はゼロに。また、女性特有の肺の病気になる、思い切り声を出すことや歌うことに少し制限ができてしまいました。名古屋へ戻り、ブランクは空きましたが、仲間たちの支えもあり、再び音楽療法と音楽の活動を始めました。

-名芸を選んだ理由は?

働きながら音楽を続けたいと考えていた

とき、たまたまNY大学の音楽療法のことを知りました。音楽は大衆に売ることが大きな目的となっていますが、音楽療法を見て、こんな音楽の受け入れられ方があるのかと衝撃を受けました。勉強したいと思いましたが、NYへ行くわけにもいかないし、音楽療法を学ぶことのできる大学を探しました。調べていくうちに、名芸のことを知り、編入できることもわかりました。第1期生で3年編入なんです。前の大学から認められる単位も少なく、2年間で4年分勉強したような感じでした。私は、昼間は大学で勉強し、終わってから仕事をして、夜また勉強するような生活をしていて、すごく大変でした。大変でしたが、教育実習も行ってみよう、やりたいことをやろう、と寝る間も惜しんで勉強したいことを勉強することができ、本当に濃厚な時間を過ごすことができました。

-大学での経験で役に立ったことは?

サウンドメディアなど、自分の専門とは違う領域の人と出会うことができたことです。オーケストラと共演するルネッサンスなど、いろいろなことにチャレンジする機会があり、面白い経験がたくさんできました。音楽だけでなく、さまざまなジャンルのクリエイターと知り合いになったことも大きいです。そうした人たちとの出会いから、自分は音楽だけでなく、目に見えないものを形にすることが好きなんだと実感しました。また、自分のことを理解してくれる人がいるだけ



「THE TOWER HOTEL NAGOYA」
名古屋TV塔のアートホテルの一室を担当。
AD,D,A: 白澤真生、PRI: 片山浩、
TP: 足立聖、
CL: THE TOWER HOTEL NAGOYA

「Wonders!」 COINN。
AD,D: 白澤真生、I: まちこ、
CL: COINN

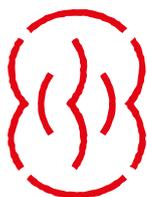


本学開学50周年記念品のパッケージや卒業制作展のポスターもデザイン

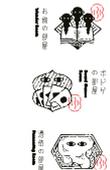
ものごとを多角的に考える力。それが僕にとっては一番の財産

白澤真生
さん

テキストデザインコース卒業
グラフィックデザイナー
アートディレクター
公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会 (JAGDA) 会員
<https://whoswho.jagda.or.jp/jp/member/2493.html>



不思議な宿
議



「不思議な宿」ロゴ、サインなど。AD,D,I: 白澤真生、
CD: 佐藤ねじ、CL: YADORI

—今、何をしていますか？

グラフィックデザイナーとして、2次元に関することは何でもやります。それからアートディレクションですね。自分としては手を動かして絵を作るほうが本業と思っていますが、デザイナーとしてもディレクターとしても、ビジュアルに関して責任を持って舵取りしていきたい気持ちがあり、場合によってはアートディレクターも名乗っています。

—卒業してからはどんな仕事を？

大学ではテキストデザインコースを専攻し、昼はテキストデザインを学び、夜は家でグラフィックをやる、そんな学生生活でした。就職の希望はグラフィックデザインのほうで、就職活動で面接を受けたとき、作品が少ないと指摘を受けました。テキストの作品とグラフィックの作品の両方をやっていたので、グラフィックを専攻してきたほかの学生にくらべ作品が少なかったわけです。それで、卒業してから半年間、助手というか、制作期間をもらって思い切りグラフィックの作品を制作しました。並行して、グラフィックデザインの会社でアルバイトを

始め、デザインの基礎的なことを教えてもらいました。当時、ブログをやっていて、そこで名古屋の気になるデザイナーの方と交流するようになり、一緒に仕事をするようになりました。仕事のかたわら、自分たちをアピールするためコンペに出したり、展覧会を開催したり、いろいろなことをやりました。東京TDCや愛知広告協会で賞をいただくようになり、代理店さんに見つけてもらって今につながっています。大きな仕事をいただくようになるのに、展覧会をやるようになって5年くらいはかかっていますね。

—名芸を選んだ理由は？

志望していた大学に落ちて(笑)。最初の頃は、東京や京都の大学に劣等感みたいなものがありましたね。ただ、名芸の自由な雰囲気自分が合っていて良かったと思っています。1年のとき、デザインのいろいろな分野を体験しましたが、それも自分に合っていました。当時、テキストの先輩たちは、テキストアートみたいな作品を作っている、デザインでありながらアートっぽいことができる自由さに惹かれテキストを選択しました。

—大学での経験で役に立ったことは？

1年のときにできた友人が、それぞれデザインの違う領域へ進みました。今も付き合いがありますが、ソファを作っていたり、空間(スペース)デザインへ行ったり、映像を作っていたり、すごく幅が広いです。自分の専門だけではできないものの見方、デザインを俯瞰して眺めるような、そんな見方ができるようになったのは友人たちのおかげかなと思います。友人を通して、ほかの領域の先生とも親しくなりました。僕はテキス

タイルでしたが、授業が終わればプロダクトの部屋へ行くことが多かったです。デザインの仕事をやっていて感じることは、選択肢をどう考えるかだと思うんです。例えば、AとB、2つの選択肢があるとします。僕は、仕方なくどちらかを選ぶというのが嫌なんです。AとBを両立できることはないだろうかと考えるようにしています。幅広く見ることと両方を取れるような選択肢が生まれることもあり、そうしたことに役立っていると思っています。

—今、ハマっていることは？

子どもがいるので、やっぱり育児かなあ。それから、学生と接するようになって、オタクでもない普通の学生が皆アニメを見ることがわかり、アニメを見るようになりました。仕事をしながらYouTubeをBGV的につけていることも多くて、経済のことや政治的な意見の動画など、けっこうたくさん動画を見えています。「中田敦彦のYouTube大学」など教育系の動画や、本を紹介する動画などで紹介されたものを読んでみたり、情報収集に役立っていますね。

—名芸を目指す人に一言！

やっぱりファンデーションが良かったです。今では、デザインだけでなく、美術や音楽でも総合的なカリキュラムがありますよね。そこで、いろいろな領域に友人がたくさんできたことが良かったです。たくさんの学生がいる中で自分に合った友人を見つけ、それぞれが違うコースに進んでいって、という環境が僕はすごく良いなと思っています。こうして自然と多角的にものごとを考えられるようになり、それが僕にとっては一番の財産です。



織物の歴史と若い感性の融合で 経営拡大につながることを証明したい

小島日和
さん

テキスタイルデザインコース卒業
テキスタイルデザイナー
terihaeru 代表 / NINOW 運営代表 (展示会を企画運営)
<https://www.terihaeru.com/>
<https://www.ninow-textile.com/>



魔法 / 春のおとずれ

- 今、何をしていますか？

テキスタイルデザイナーとして、自分のブランド「terihaeru」の運営と、全国の繊維会社に所属しているテキスタイルデザイナー／企画担当の方を集めた「NINOW」という展示会の企画と運営をしています。尾州産地で使われているジョンヘル織機という織機で作られる生地が素晴らしいのですが、職人さんの技術を引き継ぐ後継者の問題があり、大きな目標としては自分を含めて後継者を育成して、ジョンヘル織機で工場を運営していきたいと思っています。NINOWという展示会を行おうと思った経緯は、繊維業界には歴史がありますが、若い人の感性と出合うことで面白いことができるんだと、また、それが数字になってちゃんと経営の拡大につながるんだと証明したくて活動しています。

- 卒業してからはどんな仕事を？

学生時代に自分のブランドを立ち上げました。一宮の人材育成事業で「翔工房」(学生のデザインを一宮の職人が制作するというコラボレーションのプロジェクト)というのがあるのですが、そこで今の師匠となる(有)カナーレの社長、足立聖さんと知り合うことになりました。初めて足立さんの生地を見たとき、こんなにかわいいものが世の中にあるんだ!と衝撃を受けました。生地を

制作していくうち、欧州のハイブランドに商品を卸しているにもかかわらず、後継者が不在で存続が危うい業界の現状について知ることになりました。下請けであり自分たちで企画を決められないことや、一般のお客さんに向けて商品を販売していないことなど、変えていきたいと考えました。どこかの会社に入って実力を上げなければと思いましたが、職人さんたちの年齢や状況を思うと早く何とかしたい、自分のブランドもやりたいと、モヤモヤしている気持ちを足立さんにぶつけたところ、「好きにやってみろ」といわれまして、やるしかないと奮起したのが大学3年の秋でした。卒業後、一時、Re-TAIL(旧尾西繊維協会ビル)に事務所兼ショップを出させていただいたんですが、そのときお願いしていた機屋さんが倒れ、やはり自分で織機を稼働できるように勉強する必要があると思い1年でお店をやめ、昼間は機屋さんと一緒に1年でお店をやめ、昼間は機屋さんと一緒に織機の勉強、夜は足立さんのところで企画したり、デザインしたりすることを2年ほど続けました。こうした活動をしていたところ、「装苑」の元編集長である片岡朋子さんとお会いすることがあり、繊維産地で若手が活躍しにくい現状をお話するうちに、何かやりましょうという話になり、「NINOW」が始まりました。NINOWが始まってから、自分でやるタイミングだなど独立しました。

- 名芸を選んだ理由は？

名芸一本でしたよ。美術よりもデザインがやりたくて、愛知県内でデザインのことのできる大学を調べ、名芸が一番だと思いしました。1年でファンデーションがあり、自分が何に向いているかもわからなかったので、選択肢が広がることもいいなと思いました。

- 大学での経験で役に立ったことは？

やりたいことをやってみる、思い切ってやってみることって学生時代しかできないことだと思います。重要だったのは同級生のテンションというか、流れというか、やる気ですね。大学2年のときの学祭で、同級生が同じブースでお菓子を売っていたんです。お客さんの高校生が「名芸って楽しいですか?」と聞いたのに、「楽しいと思えるかどうか、それは自分次第だ」と高校生に答えているんですよ。「どこへ行くかが何もなかったらそれで終わりだし、自分から動いていったら楽しい。場所なんか関係ない」みたいな話をしていた、高校生に響いたかどうかわかりませんが、私にはめっちゃくちゃ響きました(笑)。

- 今、ハマっていることは？

すべてが仕事に関連してくるので……。何だろうな。やっぱり洋服のことですね。

- 名芸を目指す人に一言!

学生の頃は自分のことを客観視できてない時期で、私はメディアコミュニケーションデザインに行きたかったんです。ところが、当時の作品を見ると糸や布を使った作品ばかりで、テキスタイルデザインコースの扇先生からはテキスタイルに向いているといわれました。自分の適性よりも、憧れみたいなやりたいことに向かっていたんですね。でも、実際にはテキスタイルがすごく合っていた。大学は、客観的に自分の能力について見てくれたり、考えてくれたりするところだなと思います。いろんなことに取り組んで、いろんな体験をすることで、本当に自分に合ったものが見つかるのではないかと思います。



マスター



アーティスト

【第50回】

＜アイデンティティー＞



Twitter @kamikabeatz

中森信福

(なかもりのぶふく)

[KAMIKABEATZ]

芸術教養領域リベラルアーツコース 助手
作曲家、トラックメイカー



1989年 米国ロサンゼルス生まれ、2歳で名古屋市へ
2012年 音楽学部サウンドメディアコース卒業

2011年 在学中に出演した「ルネッサンス21 -Planetaria-」では、セントラル愛知交響楽団と能のコラボレーション作品を発表

2014年 映画「こうたろう イン スペースワンダーランド」(arteggyumi 監督)に音楽で参加

2017年 映画「レッドリスト」(石原貴洋監督)の音楽制作、以降、石原作品の音楽を手がける。最新作は「大阪少女 -OSAKA GIRL-」。映画音楽のほか、KAMIKABEATZ 名義で能の世界観を取り入れた和風エレクトロニック・ダンス・ミュージックのトラックを制作、トラックメイカー、DJとしても活動中

自分に合っていることはどんなことなのか？ 自分がやりたいことは何なのか？ 話してみると、芸大といえどもやりたいことに強い希望を持っていない学生が意外なほど多数いることに気付かされる。やりたいことが明確な友人たちを思い浮かべ、自分はあんなふうにはなれないと、何処か卑下するような面持ちで話してくれたりする。しかし、やりたいことが見えていない、そのことがそれほど悪いことなんだろうか……。

「大学時代は暗黒期で、髪も長くして暗黒な曲を暗黒なバンドでやろうとしてました。ダウン系とクラブ系をミックスして、なんかちょっとヤバいレイベでかかってそうな曲、そんなのを作ろうとしてました。当時は、夢で金縛りにあったり、日本人形がいっぱい出てきたりとか(笑)」。

作曲を学びたくてサウンドメディアコースへ入学した。だがそこに到るまでの道は平坦なものではなかった。米国人の父親と日本人の母親、小学生の頃には容姿をからかわれることもあったという。「自分に対するコンプレックスが強くて、いまでこそ普通にしていますけど、中学、高校と先輩に目をつけられていました。自分は考えすぎる性格で、当時、まわりにはいた人は『こいつの言ってること、わけわかんねえ』と。まず、モテなかったし、一番浮いてたし、一番変わってました。毎日、外を

歩くだけで人の視線が刺さるように思っていましたね。自分が自分以外の誰かになれたらいいのに、と思っていました」。

音楽をやっていくしかないという子供の頃から思っていたというのが、ストレートに音楽の道を進んで来たわけではない。小学生の頃から始めたピアノではクラシック一辺倒だったが、わからなくなってしまった時期があったという。「音大のピアノ科へ行きたくて、東京の音大の夏期講習に行っていたんです。そこで講師がポップスのミュージシャンのことを悪く言うんです。あんなのは作曲じゃない、ベートーヴェンやモーツァルトのような曲を作れない、なんて言う。どうしてそうなるのか自分では納得できませんでした。日本人が音楽をやってなぜベートーヴェンがいまだにゴールなのか、



DIR EN GREY (ディル・アン・グレイ)という、ヴィジュアル系のバンドが好きで、ドグマだとかカルマだとか、そういうものを表現したいと大学の頃は思っていました。日栄一真先生が、真剣にお蔵に連れていこうとしてましたよ(笑)

その感覚も共感できませんでしたし、それこそ欧州の模倣で終わってしまうんじゃないかと思いました。そんな価値観が普通であることに、とても息苦しく感じました。自分は日本人であり、より日本人らしくあろうということ意識していた自分にはそういった価値観が合わず、メンタルの面でも落ち込んでしまいました。高3で受験に挫折して、音楽をやる意味ってあるのかな、誰かに聞かせる価値のある音楽があるのかなと考えるようになって、音楽から離れた。高校は出席日数ギリギリでなんとか卒業、でもピアノには触らないと決め、ビデオレンタルでアルバイトをしながら過ごした。そうして1年を過ごし、将来について考えなければと思い始めた頃、救いを差し出してくれたのは母親だった。「ピアノじゃなくて最終的にやりたいのは作曲でしょ」と自分が本当にやりたかったことに気付かせてくれた。

「軍歌が好きなんですよ。魅力は、歌詞の重みと表現力かな。言葉にすごく重みがあって、安っぽいラブソングじゃないところに惹かれるんです」 落ち込んでほとんどの音楽を遠ざけていたときも、詞は心に残っていた。そしてもう一つ、音楽にかかわる重要な要素が“能”である。「高校1年のときだったか、電車の広告に豊田市能楽堂の催しの



「大阪外道」「大阪蛇道」「コントロール・オブ・バイオレンス」の石原貴洋監督の新作映画「大阪少女」で音楽を担当。「クズ人間だらけの理不尽な世界で遅く生きるちほちゃんに負けないよう、最高にハッピーな音楽を表現しました。」
<https://ishihara-movie.com/osakagirl>



プロジェクトチーム【黒雨】の作品第一弾。2011年3月8日、名古屋芸術大学にて行われた音楽イベント「ルネッサンス21 - Planetaria -」にて



プロジェクトチーム【黒雨】作品第二弾。2012年3月11日、愛知県芸術劇場小ホールにて発表



脳の使う部分が違うと言うか、音楽を作っているときと演奏するとき、ぜんぜん違います。アーティストの精神構造って、本当に独特なんだと思います。アーティスト専門のメンタリストがいてもいいと思いますよ。アーティストにかかわる人には、そういうことも知っていてほしいですね

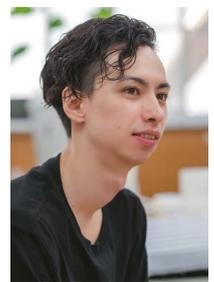
案内があって観に行きました。藤田六郎兵衛先生の笛で凄かったです。極悪な芸能だと思いました(笑)。地謡(じうたい、場面や状況を説明する音楽)はコーラスですけど呻き声みたいで怨霊の声のように感じました。能の題材も成仏されない霊や恨みとか呪いとかが多く、感情の淀みですよね。舞台を観てそこに悪霊が空間に蠢いているみたいな気がして、そんな映像が頭に浮かんできました。カルトというか、知られざる民族の儀式を目撃してしまったような気になって、すごく興奮しました。能に触れて、能のエッセンスを今の音楽に乗せることができたらスゴイのができると思いました」 大事な意味を持つ歌詞、能の精神性を持つ音楽、これらを組み合

わせることが自分のアイデンティティーに根差した新しい音楽に違いない。そう考え、能の演者とオーケストラをコラボレーションさせた音楽を実現した。

卒業してからは、結局、就職せずアルバイトをしながら、映画制作を手伝った。「2013年のあいちトリエンナーレが転機でした。まちなか展開拡充事業(まちトリ)でボランティアをやったんですが、そこで社会とのつながりの大事さがよくわかりました。社会人訓練ゼロで来たのを“まちトリ”のリーダーみたいな人にたたき直してもらったように思います。そこで出会った人たちとは、その後、お仕事をいただいたり、今もつながりがあり

ます。トリエンナーレの経験は本当に大きかったです。家で一人で音楽を作ってもどこへ届けていいのかわからない。自分だけで完結してしまっていました。自分が作ったものを、どういう人に助けてもらって、どういう人に届けて、社会の仕組みの中でどうやって入っていくか。今、助手をやりながら学生と一緒に学び直して、自分自身、考えていかなきゃと思っています」。

自分のアイデンティティーを認識し、それを受け入れてオリジナリティへと昇華させることは、やはり一筋縄では行かないことである。生みの苦しみは、創作にかかわる限り誰にもある。苦しんだ分だけいいものができる。簡単には言えないが、苦しんだ末に生み出されたものへは、愛着も共感もひとしお深く感じる。誰もが先の見えない今、不安を抱えながらも進むしかない。



出 Books 版

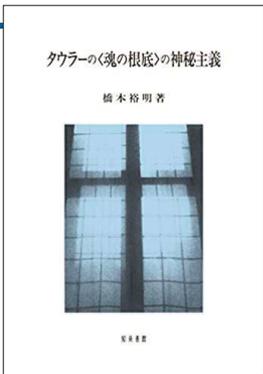
教職員著作の出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)



■中川直毅(著)
人間発達学部教授、
キャリアセンター長
『要説 キャリアとワークルール』
●出版社/三恵社



■横山豊蘭(著)
美術領域 非常勤
『書道』の教科書 改訂版
この一冊で、書道からアートまで全部がわかる
●出版社/実業之日本社



■橋本裕明(著)
デザイン領域 教授
『タウラーの〈魂の根底〉の神秘主義』
●出版社/知泉書館

2020年度演奏会スケジュール(予定)

第5回連携事業 名古屋芸術大学開学50周年記念ガラコンサート

◆日 時/2020年11月14日(土)

●A公演「フィガロの結婚」
13:00開場 14:00開演

●B公演「魔笛」
17:00開場 18:00開演

◆日 時/2020年11月15日(日)

●C公演「こうもり」
13:00開場 14:00開演

●D公演「メリー・ウィドウ」
17:00開場 18:00開演

※各公演とも約1時間の上演予定です

◆会 場/名古屋市西文化小劇場ホール

◆入場料/各公演1,000円(全指定席) ※未就学児入場不可



名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団 第6回定期演奏会

◆日 時/2020年12月17日(木)

18:30開演(18:00開場)

◆会 場/愛知県芸術劇場コンサートホール

◆入場料/無料(全席指定) 事前申込制

◆申 込/申し込みフォームを

ご利用ください
※厚生労働省の「新型コロナウィルス接触確認アプリ(COCOA)」をインストールの上、ご来場ください。



体験型イベント

「音楽の森 - ベートーベン Birthday Party -」

◆日 時/2020年11月15日(日)

◆会 場/本学 東キャンパス 2号館

◆対 象/ベートーベン・ツアー:

小学校1~6年生 限定15名
コンサート:30名限定

※どちらも未就学児のご参加は不可

◆参加費/無料(要 事前申込)

◆問合せ/artmanagementnua2019@gmail.com



エンターテインメントディレクションコース

卒業公演「朗読劇 #注文の多い料理店」

◆日 時/2020年12月26日(土) 15:00開演(14:30開場)

◆会 場/本学 東キャンパス 3号館ホール

◆入場料/無料(全席指定)

◆予 約/予約フォームよりご応募ください

◆問合せ/nua.entame2020@gmail.com

予約フォーム



Twitter



YouTube



表紙の写真



音楽領域の学生で結成したグループ Rue*Claire (リュウクレール)。
写真右から、Mai・美響・Karen・かほ・晴名の5人組。



名古屋高速道路社と本学の50周年コラボ企画(→本誌P2)
で制作したイメージソング『君と行きたい』の歌唱を担当

Twitter @rueclaire_info
Instagram @rueclaire_info



『君と行きたい』



「名古屋芸大
グループ通信」
ウェブサイトを



発行:名古屋芸術大学
企画・編集:広報部
デザイン・協力:くまな工房一社
印刷:株式会社
発行日:2020年11月13日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

